



ごみを燃やすと、どんな物質が出てくるの

燃えたものは灰に、煙突から出る煙には有害ガスも

わたしたちがくらしの中で使った後、捨てるさまざまなごみ。このごみの中には、人工的に作られた化学物質がいっぱいです。これらのごみが混じったまま、焼却炉で燃やされると、有害なガスが大量に発生するのです。

ふつう、ごみを燃やすと、二酸化炭素と水じょう気が発生します。しかし、つぎのような有毒ガスを発生させるものも多く混じっています。

たとえば、プラスチックやビニル類からは、ダイオキシンや塩化水素が発生し、かん電池やけい光灯、水銀体温計などが燃やされると、水銀じょう気が発生します。どれも、強い毒性をもっています。

また、これらを燃やした燃えかすにも、有害な水銀、なまり、カドミウム、ダイオキシンなどがふくまれています。

もう毒のダイオキシン

ダイオキシンは、プラスチックやビニル類を燃やすと発生する有毒ガスのことです。特にダイオキシンは、もう毒といわれ、ガンを発生させたり、お母さんのおちちにたまって、赤ちゃんに悪いえいきょうを与えるのではなどと心配されています。

毎日、大量に出るごみをどうするかは、とても大事な問題です。できるだけ、ごみを出さないように心がけることが最も大切なことです。ごみを出すときは、資源に再び使用できる空きかんやびん類、かん電池、紙類などは、分けたり、燃えるごみと燃えないごみを分別することが大切です。（監修 青木国夫）

